

京都ビッグデータ活用プラットフォーム 第4回会議 開催概要

1. 日時 2019年7月8日(月) [1部] 14時00分～15時30分
[2部] 15時40分～17時00分
2. 場所 京都経済センター 6-B・6-C会議室
3. 出席者 参加者名簿のとおり【実績：164人】
4. 概要

【第1部】

(1) 開会挨拶：京都府副知事 山下 晃正【座長】

- ・ 昨年度、京都ビッグデータプラットフォームを立ち上げ、今年から本格稼働をしていく。本日の会議では、既にいくつかワーキンググループ(以下、「WG」)が立ち上がりつつあるので、「こういうこと具体的にしていきたいと考えている」というプレゼンをしてもらう。
- ・ 当プラットフォームは今年から年会費をいただき事業を実施する。会員は、どのWGにも参加いただける権利がある。
- ・ 昨年度補助金を受け整備を行ったサイネージ等は、会員は基本的に無料とする予定なので、積極的に実証実験等に利用いただきたい。サイネージコンテンツ等を新たに作る等になれば、お金を出してもらう必要があるが、基本無料の予定。
また、民間企業等から提供いただくものもできるだけ会員に開放していただき、オープンプラットフォームとなるよう御協力いただきたい。
- ・ 今後は、京都経済センターを中心にやっていきたいと考えている。ここは京都のオープンイノベーションの拠点。WG活動もコアメンバーだけに限らない打ち合わせは、3階オープンイノベーションカフェが完全無料で開放されているので、利用いただきたい。
また、WG等で研究開発を行いたい、となった場合に希望する機関等への御紹介や助成金獲得のハンズオン支援等、経済センターには支援機関がオール京都で入っているの、上手くここから繋がられるようにしたい。
- ・ 去年とはステージが変わり、本格的に稼働していくので、心して事務局サポートしていきたいと考えているが、WGの立ち上げは支援するが、走りだしたら自前で進めていただきたい。皆さんが自らどんどん進めていただくことが、オープンイノベーションプラットフォームの成功となると考えている。

(2) 京都ビッグデータ活用プラットフォーム概要及び課題別WGの設置について

- ・ 資料：「04 第4回プラットフォーム会議資料」により説明

(3) 各WGの事例紹介

① デジタルサイネージ活用WG

● シンク・アンド・アクト(株) (D-stand プロジェクト)

- ・ デジタルサイネージを広告媒体ではなく、設置された周辺の公共空間にフォーカスを当て、その空間で府民がいかに心豊かな空間・時間を過ごせるかのモデル実験を行うことを提案。

- ・サイネージの周りでパフォーマンスや体操を行う「D-パフォーマンス」、「D-体操」や仲間を募集する掲示板等としての活用の「D-LINE」、また、行政サービスや安心安全の公器としてサイネージを利用する等を構想中。
- **(株)スイッチスマイル(サイネージ+Beacon)**
 - ・資料：05-1 ①-2「位置情報プラットフォーム：pinable」により説明
 - ・2018年12月現在、国内に約1万個設置。更に京都府内にも追加設置予定。サイネージだけでなく、様々な場所に設置したいと考えている。本体は、電池で稼働し、3年程度の寿命。
 - ・Beacon情報は無償のオープンプラットフォーム。オープン化し、様々なサービスと連携したい。
- ② **スマートアグリWG** 説明:京都府農林水産部 流通・ブランド戦略課
- ・資料：05-2 ②「京都の農林水産業におけるスマート技術導入の取組」により説明
 - ・京都府は全国に比ベスマート技術の導入が遅れている。今年度から導入支援と開発実証の両輪で推進を本格開始。
- ③ **スマートモビリティWG** 説明:京都府商工労働観光部 文化学術研究都市推進課
- ・資料：05-3 ③「スマートモビリティワーキング」により説明
- ④ **スマート観光WG**
- **京都府商工労働観光部 観光企画室**
 - ・資料：05-4 ④-1「スマート観光WG」により説明
 - **シンク・アンド・アクト(株)**
 - ・プロジェクト“京都 八百万神に出逢う道”。山の中に入ってスピリチュアルな写真を撮影する写真家、小林伸幸氏の写真をアナログコンテンツ、デジタルコンテンツで発信し、京都府下の地域の自然資産に新たな価値付けを行い、府域への周遊観光を促す。
- ⑤ **スマートパークWG: けいはんな記念公園管理事務所**
- ・資料：05-5 ⑤「スマートパークWG」により説明
- ⑥ **QOL(生活の質)WG**
- **シンク・アンド・アクト(株)**
 - ・プロジェクト“KYOTO キモチとカラダの QOL”。行政や企業・団体等の見地や教材の提供を受け、親子スポーツ医科学教室を開催し、その結果データを参加者や行政へフィードバックするプロジェクトや、データの利活用により、高齢者が安心して長く運転できるようなプログラムを検討するプロジェクト、働く人のQOL向上のための健康経営サポートプログラムの検討等を予定。
 - **社会福祉法人 京都聴覚言語障害者福祉協会**
 - ・資料：05-6 ⑥-2「『聞こえ』の可視化」により説明

- ⑦ スマートセキュリティ研究会(WG) 説明:京都府警察本部 警務課治安総合対策室
- ・「犯罪」、「交通事故」「災害」の視点で先端技術を応用し、課題解決を図っていきたいと考えている。
 - ・個人情報の扱いや法律の課題等ハードルは高いが、できることから着手していければ。

(4) 記録写真



【第2部】 ※ 会員限定